（別紙様式4）

令和8年7月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校浜松校	平成6年3月30日	山本　薫	〒　430-0928 （住所）　静岡県浜松市中央区板屋町101-8 （電話）　053-455-4554
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人 名古屋大原学園	昭和57年9月28日	杉山　慎太郎	〒　450-0002 （住所）　愛知県名古屋市中村区名駅三丁目20番8号 （電話）　052-582-7733

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
商業実務	商業実務専門課程	ホテル・ブライダル科 （ブライダルコース）	平成25(2013)年度	－	平成26(2014)年度

学科の目的	ホテル・ブライダル業界等への就職を目標に、実務上必要とされるレストランサービス技能やブライダル業界で必要な技能を身に付け、HRS技能検定・ホテル実務技能試験・ブライダルコーディネート技能検定等の資格を取得し、併せてホテル・ブライダル業務全般の知識を身に付けることを目的とする。
学科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	主な取得資格は、【国】レストランサービス技能検定、【国】ブライダルコーディネート技能検定、ホテル実務技能検定、サービス接遇検定、フォーマルスペシャリスト検定、色彩検定、サービス介助士など。※【国】：国家試験　一流のブライダルスタッフとしての接客技術を学ぶ。

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,800 単位時間	740 単位時間	60 単位時間	1,090 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
		0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位	0 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合 (B/A)	中退率
70 人	33 人	0 人	0 %	0 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	17	人
■就職希望者数（D）	17	人
■就職者数（E）	17	人
■地元就職者数（F）	13	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	76	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和 7 年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

株式会社スティルアン、パルモグループ イズモ株式会社、リゾートトラスト株式会社、株式会社ツツミ、As-meエステール株式会社他

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

https://www.ohara.ac.jp/hamamatsu/course_hamamatsu/bridal_hitb/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

（Ａ：単位時間による算定）

総授業時数	1,800 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	340 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	60 単位時間
うち必修授業時数	1,800 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	340 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	60 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	240 単位時間

（Ｂ：単位数による算定）

総単位数	0 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		2 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

グローバル化の進展や各国の経済成長に伴い、今後、外国人旅行者の増加が見込まれるため、ホテル業界はホスピタリティを発揮できるホテル業務全般に精通した有用な人材を求めている。業務に従事する上で必須とされるホテル関連分野の専門技術とそれを裏付ける専門的な知識を習得させると共に、企業等との連携を図り、インターンシップを通してホテル実務を身に付けた有用な人材を育成していきたい。教育課程の編成にあたっても企業等との連携は不可欠で、業界の動向を踏まえつつ、企業等からの要望・意見を取り入れながら一層充実したものとするなど教育の質の向上・維持に努めていきたい。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会は学園の組織上、個別委員会の1つとして位置づけられ、学校教職員（校長含む）のほか、専攻分野の企業等の役職員で構成されている。年2回実施の教育課程編成委員会では、学科の新設・廃止、現行授業科目の見直しや授業方法の改善などの議論を行い、委員会からの提案をもとにカリキュラムの改善等を検討し、学校として決定していくこととする。

（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年7月31日現在

名　前	所　　属	任期	種別
小川　英雄	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合 専務理事	令和7年7月1日 ～令和9年6月30日(2年)	①
竹内　一聡	遠鉄観光開発株式会社 採用プロジェクトリーダー	令和7年2月1日 ～令和9年1月31日(2年)	③
池田　朋美	株式会社スティルアン	令和7年7月1日 ～令和9年6月30日(2年)	③
吉田　孝行	株式会社それいゆ　代表取締役社長	令和7年11月1日 ～令和9年10月31日(2年)	③
松井　恵理	Eric nails	令和7年11月1日 ～令和9年10月31日(2年)	③
山本　薫	学校法人名古屋大原学園　大原ﾄﾗﾍﾞﾙ･ﾎﾃﾙ･ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ専門学校浜松校　校長	令和7年4月1日 ～令和9年3月31日(2年)	ー
三井　亜莉紗	学校法人名古屋大原学園　大原ﾄﾗﾍﾞﾙ･ﾎﾃﾙ･ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ専門学校浜松校　主任	令和7年4月1日 ～令和9年3月31日(2年)	ー

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。）
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
（年間の開催数及び開催時期）
年2回　（7月、1月）

（開催日時（実績））
第1回　令和7年7月10日　16:00～17:00
第2回　令和8年1月16日　16:00～17:00

（5）教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
今年度のホテル・ブライダル関連実習の進捗と状況をもとに学校教育の対応や就職実績について説明をした。
業界の現状と早期に就職活動が開始する現状を確認し、今年度の新卒採用の動向と結果を報告をした。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

入学後、約3ヶ月でレストランサービスの基本を身に付けさせ、その後1ヶ月間、リゾートホテルでの実習をホテル・ブライダル科の全学生に義務付けている。ホテルの寮に宿泊して、ベル業務、コンベンション業務、レストランサービス業務を主とした接客サービスを行うものである。ホテル管理部門における導入教育終了後、各部署に配属され、実際にお客様に対して、おもてなしサービスを体験することにより、インターンシップ終了後は学生の仕事に向き合う意識が大きく変わり、その成長ぶりが目立つようになる。その後の学生生活の充実度合、学生の職業観の変化等、学生が大きく成長していく様子がうかがえる。受け身の姿勢から主体的行動へ、学生の意識改革と職場理解を深める上でこのインターンシップ研修は有意義であり、学園としてもホテル側と綿密な打ち合わせの下、引き続き、積極的に取り組んでいく方針である。

（2）実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

インターンシップ研修終了後は各企業より学生個別の評価シートをいただき、個別に指導を行っている。企業における実習・演習を通して学生の成長に繋がるように企業と連携して実施していく。

（評価シート連携企業：＜ホテル＞リゾートトラスト株式会社／株式会社オークラアクトシティホテル浜松／遠鉄観光開発株式会社ホテルコンコルド浜松など＜ブライダル＞イズモ株式会社／株式会社スティルアン／株式会社テイクアンドギブニーズなど）

また、校内実習では、実習ごとに担当講師が成績をつけている。

（3）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科　目　概　要	連　携　企　業　等
インターンシップ研修Ⅰ／Ⅱ	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	机上での学習後の実践力を養うため実際の社会現場にて適用する力を身に付ける。	リゾートトラスト株式会社／株式会社スティルアン／イズモ株式会社／株式会社テイクアンドギブニーズ
ブライダルアートⅠ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現場で働く最前線の方からのメイク・ヘアメイクなどの講習により、業界内の更なる知識や技術を身に付ける。	Eric nails
ブライダルアートⅡ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現場で働く最前線の方からのネイル・フラワーなどの講習により、業界内の更なる知識や技術を身に付ける。	Eric nails／株式会社それいゆ
料飲実務	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	現場で働く最前線の方からのバー講習により、業界内の更なる知識や技術を身に付ける。	Bar Savigny
ブライダル実習Ⅰ／Ⅱ	5. その他※具体的な連携方法を科目概要欄に記述すること。	校内にて準備やリハーサルを行い、校外の実際の挙式会場にて挙式から披露宴までの実践学習を通してブライダルの専門能力を身に付ける。	株式会社クロト／株式会社スティルアン

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
学園の『教育研修支援規程』第2条（教職員の義務等）に、「学園の教職員は、所属部署に関わらず、就業規則第39条（教育）の規程により、学園が必要と認める教育又は研修を受けなければならない。」（抜粋）と規定されており、この規程に基づき、教員が担当する分野の実務研修や学生への指導力向上のための研修を毎年継続的に受講させる方針である。さらに計画的実施のために、長期休暇（夏季休暇・冬期休暇など）を中心に職員が受講可能な研修をプログラム化し、研修に参加しやすい環境作りを心掛ける。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	ブライダル実習に向けての職員研修①	連携企業等：	株式会社スティルアン
期間：	令和7年6月～令和7年7月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	学生主体のブライダル実習前に企業担当者からの直接指導を受け、学生の実習を滞りなく遂行できるサポート力と実務経験を積んだ。		
研修名：	ブライダル実習に向けての職員研修②	連携企業等：	株式会社スティルアン
期間：	令和8年1月～令和8年2月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	学生主体のブライダル実習前に企業担当者からの直接指導を受け、学生の実習を滞りなく遂行できるサポート力と実務経験を積んだ。		
研修名：	ホテル企業・ブライダル企業視察研修	連携企業等：	リゾートラスト株式会社、ブライダル企業
期間：	令和7年8月・11月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	インターンシップ視察の際、ホテルやブライダル企業担当者から現場の実情を伺う機会を設けた。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	企業見学会および業界理解研修	連携企業等：	リゾートラスト株式会社
期間：	令和7年6月27日（金）	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	実際に企業見学会の研修を実施し、施設見学や働いているホテルマンとしての心構えやホテルブライダルとしての役割など、多くの貴重な体験をした。研修した内容を学生の教育に活かしていきたい。		
研修名：	教育指導研修	連携企業等：	無し
期間：	令和7年8月・12月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	指導力の習得および向上を促す研修内容を学校内にて実施した。		

（3）研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	ブライダル実習に向けての職員研修①	連携企業等：	株式会社クロト
期間：	令和8年6月～令和8年7月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	ブライダル実習などの研修内容を見直し、専攻分野の実務に役立つ内容に変更を加えながら実施する予定。		

研修名：	ブライダル実習に向けての職員研修②	連携企業等：	株式会社スティルアン
期間：	令和9年1月～令和9年2月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	ブライダル実習などの研修内容を見直し、専攻分野の実務に役立つ内容に変更を加えながら実施する予定。		

研修名：	ホテル企業・ブライダル企業視察研修	連携企業等：	リゾートラスト株式会社、ブライダル企業
期間：	令和8年8月・11月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	インターンシップ視察の際、ホテルやブライダル企業担当者から現場の実情を伺う予定。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	企業見学会および業界理解研修	連携企業等：	リゾートラスト株式会社
期間：	令和8年6月19日（金）	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	実際に企業見学会の研修を実施し、施設見学や働いているホテルマンとしての心構えやホテルブライダルとしての役割などを把握する予定。		

研修名：	教育指導研修	連携企業等：	無し
期間：	令和8年8月・12月	対象：	ホテル・ブライダル科職員
内容	指導力の習得および向上を促す研修内容を学校内にて実施予定。		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針

自己評価をベースにした学校関係者評価を行い、この評価結果を広くHPで公表することにより、学校法人の責務として、情報公開を積極的に推し進め、社会に開かれた専門学校を目指すことが社会貢献に寄与する第一歩であると考える。このため、学校関係者評価の実施と結果の公表を行い、今後の学校運営の改善を図っていく方針である。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか） ②学校における職業教育の特色は明確になっているか ③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
（2）学校運営	①目的等に沿った運営方針が策定されているか ②運営方針に沿った事業計画が策定されているか ③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ④人事、給与に関する規程等は整備されているか ⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか
（3）教育活動	①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ⑦授業評価の実施・評価体制はあるか ⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか ⑭職員の能力開発のための研修等が行われている
（4）学修成果	①就職率の向上が図られているか ②資格取得率の向上が図られているか ③退学率の低減が図られているか ④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか
（5）学生支援	①進路・就職に関する支援体制は整備されているか ②学生相談に関する体制は整備されているか ③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ④学生の健康管理を担う組織体制はあるか ⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか ⑥学生の生活環境への支援は行われているか ⑦保護者と適切に連携しているか ⑧卒業生への支援体制はあるか ⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか
（6）教育環境	①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか ②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ③防災に対する体制は整備されているか

(7)学生の受入れ募集	①学生募集活動は、適正に行われているか ②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ③学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ③財務について会計監査が適切に行われているか ④財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ④自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ③地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価実施無し

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

ホテル・ブライダル分野は回復傾向にあり、今後は、インターンシップなどを通じて実務実践力を身に付け、社会に出て即戦力として活躍できる人材の育成が、これまで以上に求められると予想される。特に、インバウンド需要の拡大によりホテル業界は好調に推移しており、今後ますます人手不足が深刻化することが懸念される。一人でも多くの若い力を業界の担い手として育てていくという使命を持ち、学生一人ひとりの成長を支援する教育に取り組んでいただきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名　前	所　　属	任期	種別
牛田　策啓	税理士法人ソレイユパートナー 牛田策啓税理士事務所　所長	令和7年11月1日 ～令和9年10月31日(2年)	関係業界・卒業生
高塚　陽介	遠鉄鉄道株式会社　旅行営業部 団体旅行センター	令和8年9月1日 ～令和10年8月31日(2年)	関係業界・卒業生
堀内　章伸	医療法人社団　至空会	令和8年4月1日 ～令和10年3月31日(2年)	関係業界・卒業生
山本　伊織	社会福祉法人　聖隷福祉事業団　法人本部　人材開発課　人事企画部次長	令和8年10月1日 ～令和10年9月30日(2年)	関係業界
深津　正樹	浜松商工会議所　人材支援課　課長	令和8年4月1日 ～令和10年3月31日(2年)	関係団体
鈴木　雄也	株式会社和プラネット・アブロード アズ留学センター　代表取締役	令和8年4月1日 ～令和10年3月31日(2年)	地域住民

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他(　　))

URL:　　https://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment_h_itb.pdf

公表時期:　　令和7年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校法人として、企業等、社会に向けた情報公開を行うことは、当校に限らず、広く「専門学校」を理解いただくためにも重要であることを認識し、財務情報の公開も含め、ガイドラインにある項目全般にわたって積極的な公開を行っていくこととする。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学校の概要、教育目標（教育目標、特色等、所在地、連絡先、学校の沿革、在籍学生数）
（2）各学科等の教育	各学科の教育（教育目標、修業年限、募集定員、入学者数、取得目標資格、合格者実績、進級要件、卒業要件、就職状況、卒業後の進路）
（3）教職員	学校の概要、教育目標（校長名、教員数）
（4）キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育（キャリア教育、就職支援等）
（5）様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境（学校行事、課外活動）
（6）学生の生活支援	学生の生活支援（生活支援、資格取得）
（7）学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援（学生納付金、修学支援）
（8）学校の財務	財務情報
（9）学校評価	学校関係者評価
（10）国際連携の状況	特になし
（11）その他	特になし

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））

URL： https://www.ohara.ac.jp/info/pdf/assessment_info_h_itb.pdf

公表時期： 令和7年7月1日

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 ホテル・ブライダル科（ブライダルコース））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			宿泊理論	ホテルの宿泊部門についての学習	1前	60		○			○		○		
2	○			料飲理論	ホテルの料飲部門についての学習	1前	60		○			○		○		
3	○			サービス接遇Ⅰ	サービス接遇検定２・３級を目標としたサービス接遇の際の言葉遣いや適切な応対の仕方などを学習	1通	60		○			○		○		
4	○			サービス接遇Ⅱ	サービス接遇検定準１級を目標としたサービス接遇の際の言葉遣いや適切な応対の仕方などを学習	2前	30		○			○		○		
5	○			ブライダル概論	ブライダルの全般的な知識の学習	1前	30		○			○		○		
6	○			ブライダルプロデュースⅠ	ブライダルプランニングを中心とした基礎学習	1後	30		○			○		○		
7	○			ブライダルプロデュースⅡ	ブライダルプランニングを中心とした発展学習	2後	90		△		○	○		○		
8	○			ブライダル実習Ⅰ	ブライダル挙式・披露宴までの基礎実習	2前	100		△		○	○	○	○		○
9	○			ブライダル実習Ⅱ	ブライダル挙式・披露宴までの発展学習	2後	120		△		○	○	○	○		○
10	○			ホスピタティ	分野ごとに必要とされる心からのおもてなしを実践するための学習	1前	30		△		○	○	○			○
11	○			ブライダル実務Ⅰ	ブライダル実務の基礎学習やブライダル接客のロールプレイング	1後	30		△		○	○		○		

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 ホテル・ブライダル科（ブライダルコース））																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
12	○			ブライダル実務Ⅱ	フォーマルスペシャリスト検定やテーブルコーディネート実習を通してブライダルの実務学習	2前	30		○			○		○		
13	○			ブライダルアートⅠ	メイクやヘアメイクやジュエリーなどの学習	1後	30				○	○		○		○
14	○			ブライダルアートⅡ	ブライダルネイルや装花などの学習	2前	30				○	○				○
15	○			レストランサービス士Ⅰ	レストランサービス技能検定筆記対策学習	2前	80		○			○		○		
16	○			レストランサービス士Ⅱ	レストランサービス技能検定実技対策学習	2後	30				○	○		○		
17	○			インターンシップ研修Ⅰ	リゾートホテルにて実践学習	1前	150		△		○		○			○
18	○			プレゼンテーション	企画立案してプレゼンテーションの学習	1前	30		△		○	○		○		
19	○			料飲実務	料飲部門の基礎及び発展学習	2前	30		△		○	○				○
20	○			ブラダイルコーディネート	ブライダルコーディネート技能検定を中心とした学習	1後	30		○			○		○		
21	○			カラーコーディネート	色彩検定を中心とした色の基礎学習	2前	60		○			○		○		
22	○			ビジネス実習Ⅰ	社会人としての基礎知識学習	1通	120		△		○	○	○	○		

授業科目等の概要

	（商業実務専門課程 ホテル・ブライダル科（ブライダルコース））																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
23	○			ビジネス実習Ⅱ	社会人としての発展知識学習	2通	120		△		○	○	○	○		
24	○			コンピューター技能Ⅰ	Word検定を中心としたＰＣ学習	1前	60		○			○		○		
25	○			コンピューター技能Ⅱ	Excel検定を中心としたＰＣ学習	2前	60		○			○		○		
26	○			英会話Ⅰ	英語の基礎学習	1前	30		△	○		○				○
27	○			英会話Ⅱ	英語の発展学習	2前	30		△	○		○				○
28	○			就職Ⅰ	就職活動の基礎学習	1後	120		○			○		○		
29	○			就職Ⅱ	就職活動の発展学習	2前	30		○			○		○		
30		○		インターンシップ研修Ⅱ	シティホテル・ブライダル企業にて実践学習	1後	90				○		○			○
31		○		海外留学	海外留学のための準備学習と海外体験	1後	90		△		○		○	○		
合計					31　科目				1890 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：　所定の全課程を修了した者について、卒業審査会において出席状況・履修科目評価・資格取得状況・学納金納付状況を総合的に勘案して卒業を決定する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：　講義・演習・実習	１学期の授業期間	18 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。